

あなたの生きがいと元気を応援する

情報誌

南部シルバーエリア

老人福祉 ふれあいタウン

第24号 平成12年2月1日発行

新しい年を祝って鏡開き



新春お楽しみ会 1/4



宝井琴桜(たからい きんおう)
師匠の講談

新しい千年紀(ミレニアム)を迎えたことを入居者と利用者が共に祝いました。当日は雨模様のあいにくの天気でしたが、オープニングには入居者と地域の利用者約200名が集まり、鏡割りや振る舞い酒を楽しみました。引き続き新館大広間で行われた講談「徳川家康」では、横手市出身の講談師宝井琴桜師匠が張扇(はりおおぎ)の拍子よろしく、若き家康のエピソードを熱弁。今年の大河ドラマでも取り上げられている家康の正に“昇竜”の頃の話とあって、聴衆も興味津々で耳を傾けていました。

- も エリアは新しい福祉のモデルを目指します②～③
- く ここが知りたい.....④
- 活き活き学園教室紹介.....⑤
- じ エリアの元気レポート「あんなことこんなこと」.....⑥～⑧
- 私の思い出ばなし.....⑨
- 知ってお得なエリア情報⑩～⑪
- エリア 利用状況 ほか.....⑫





第11回

エリア雪祭り

エリアの利用者・入居者が「伝統的な秋田の冬の行事」を通じて地域住民と交流することを目的に毎年開催しています。子どもからお年寄りまでみんなが楽しめる企画を用意していますから、こたつから飛び出してエリアに行こう！

■日時…平成12年2月11日(金) 建国記念日
午前10時から午後5時

■場所…南部シルバーエリア

イベント内容

- ミニ四駆大会'99
エリアシリーズ 第5戦
(年間総合優勝決定戦)
- 民謡(大森町民謡同好会)
- オープニングセレモニー
(餅つき、甘酒のふるまい)
ひまわり太鼓
- 各種ゲーム
(輪投げ、雪中ウォークラリー)
ダーツゲーム 他
- ミニかまくら燈火、花火

大森町ライオンズクラブ
大森町菅生田町内会
特別養護老人ホーム 白寿園
子どもと老人のふれあいセンター

協力

各町会・各グループの協力を得て開催します

ミニ四駆大会第5ステージ	10:00~
民謡(大森町民謡同好会)	10:30~
楽しい出店!おいしい屋台!	11:00~
わなげ・聖焼き(1回目)	11:00~
オープニングセレモニー	13:00~
「ひまわり太鼓の演奏・餅つき・甘酒のふるまいサービス」	
雪中ウォークラリー	セレモニー終了後
雪中尻相撲・雪玉射的	
わなげ・聖焼き(2回目)	14:00~
ぜんざいの無料サービス	15:00~
競相投・ダーツゲーム	15:30~
ミニかまくら一斉燈火	16:30

主催 秋田県有老人福祉協会エリア
協力 大森町ライオンズクラブ、大森町菅生田町内会
白寿園、子どもと老人のふれあいセンター
川西保育所

お問い合わせ先… 0182-417-2177
0182(26)8880

Area 知って **お得な** information エリア情報

「活き活き学園」料理教室 「ラベンダー入り焼きもち」

寒さが厳しい秋田の冬。ストーブを囲んでお母さんに焼いてもらった「焼きもち」は大事な思い出。今回は、ハーブ(ラベンダー)が入った優しい香りの焼きもちを作ってみませんか。

- 開催日・時間…平成12年2月26日(土)
午前10時~11時30分
- 会場…コミュニティセンター研修室
- 講師…JA秋田ふるさと
ドライフラワー&ハーブ会
- 定員…30名
- 参加費…1人 300円
- 申し込み締め切り…平成12年2月19日(土)

陶芸作成・絵付け教室

第2、第4土曜日を利用して、陶芸の作成から絵付けまで自分一人でやってみませんか。本当のオリジナル陶芸に挑戦してみてください。

- 開催日…平成12年3月11日(土) 陶芸作成日
平成12年3月25日(土) 絵付け日
- 時間…午前の部 午前10時~12時
午後の部 午後1時30分~3時30分
- 会場…エリア陶芸室
- 講師…斎藤正雄(生きがい創作館長)
- 定員…20名ずつ2教室(計40名)
- 参加費…1人 1,000円
- 受付…午前の部は午前9時30分、午後の部は午後1時からコミュニティセンター玄関ホールで受け付けます。

レクリエーション

冬場のスポーツ施設『エリア屋内温水プール』でゲームを楽しもう！

泳げる人も泳げない人も大歓迎。みんなで楽しく水に親しめる内容を企画しています。

- 開催日・時間…平成12年3月25日(土)
午前10時より
- 会場…屋内温水プール
- 対象…幼児・小学生
- 参加費…1人 600円

軽費老人ホーム 入居のご案内

■施設の概要

自然豊かな絶景の地にあつて、世代間交流・地域交流の場コミュニティセンターや診療リハビリセンターと棟続きというのが特徴。居室は単身三十八室、夫婦室六室で、プライベートに配慮した個室となつています。

■利用できる方

六十歳以上（夫婦の場合は、どちらかが六十歳以上）で、日常生活が自分ででき、利用料を納入できる方。

■問い合わせ先

軽費老人ホーム

☎0182(26)3886



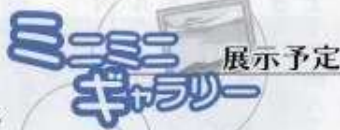
軽費老人ホーム全景

モラ刺繍展

モラ刺繍とは、カラフルな布を重ねて順々に上の布を切っていく、面白い民族調の手芸です。カバー類などの装飾物からパーティバッグやクッションなど実用的な物まで展示します。

■会期…平成12年2月1日～29日

■会場…コミュニティセンター 玄関ホール



展示予定

間所(まどころ)ひさこ人形展

埼玉県所沢市在住の詩人・童話作家である作者は、「ところざわ人形劇フェスティバル」の中心メンバー。今回はご自身が作製した、今にも動き出しそうな夢のある人形劇用の人形を多数展示します。

■会期…平成12年3月1日～31日

■会場…コミュニティセンター 玄関ホール

ボランティア活動報告 (11/3～12/22)

活動日	個人・団体名
11月5日	大森町川西婦人会のみなさん(6名)
11月11日	大森町川西婦人会のみなさん(6名)
11月12日	大森町板井田婦人会のみなさん(6名)
11月17日	大森町八沢木西婦人会のみなさん(4名)
11月25日	大森町大森婦人会のみなさん(6名)
11月26日	大森町前田婦人会のみなさん(4名)
12月3日	大森町本郷長命会のみなさん(5名)
12月7日	大森町食生活改善推進員のみなさん(4名)
12月15日	大森町大町寿会のみなさん(4名)
12月15日	大森町白山小学校2年生のみなさん(26名)
12月22日	大森町八日町第2老人クラブのみなさん(4名)

ありがとうございました。

活き活き学園からの お・知・ら・せ 「健康講座」

講師…市川晋一先生

演題…『あきらめないで尿失禁』

講師の市川先生は兵庫県姫路市出身で、秋田大学医学部及び同大学院を修了した医学博士です。現在は仙北組合総合病院泌尿器科の科長としてご活躍の傍ら、尿失禁で悩んでいる方々の相談に応じたり、情報提供・啓蒙普及活動・仲間づくりを行う『秋田コンチネンス協会』で副会長を務めておられます。おしっこに関する悩みは年齢と共に誰にでも起こることですが、予防や適切な治療・介護用品の使用で解消ができる問題。ぜひ、ご自身やご家族の快適な生活の参考にしてください。

■日時…平成12年2月25日(金)

午後1時30分～午後2時30分

■場所…コミュニティセンター

視聴覚室

活き活き学園生以外の方でも気軽に
ご参加下さい。

エリア利用状況

(4月～12月までの累計)

コミュニティーセンター

有料利用	今年度	前年度	増減
宿泊人	1,075	590	485
休憩人	17,685	16,578	1,107
会議室等時間	228	103	125
テニスコート時間	48	111	△63
屋内運動広場時間	187	221	△34
屋内温水プール人	17,970	17,759	221

無料利用	今年度	前年度	増減
屋内運動広場人	30,775	41,810	△11,035
ふれあいセンター人	27,670	30,463	△2,793
生きがい交流広場人	4,276	3,477	799
会議室等人	2,019	2,275	△256
生きがい創作館人	3,265	3,030	235
視察等人	1,549	2,121	△572

シルバーケアセンター

利用者数	今年度	前年度	増減
利用者数人	5,202	4,910	292

診療リハビリセンター

利用者数	今年度	前年度	増減
内科人	8,002	8,315	△313
リハビリ人	4,919	4,733	186
歯科人	532	764	△232

あなたの元気応援します

～送別会もやっぱりエリア!～

送別会の季節がまもなくやってきます。毎日が忙しい幹事や役員のみなさん、会場選びが悩みの種ではありませんか？

屋内にある人工芝の運動広場や温水プールがあれば、春先の不安定な天気でも大丈夫。お父さん、お母さんはサウナがついているお風呂に入ってゆっくりできます。食事はレストランも利用できるし、持ち込みもOKだから予算を上手に使えてみんなもご機嫌!



お問い合わせ先は
☎0182(26)3880
エリア企画指導課まで

編集後記

図らずも文明社会の脆さを露呈する形となったコンピュータの西暦二〇〇〇年問題は、大きな混乱やトラブルもなく乗り切ることができました。それにしても、人間が自ら作り上げたものに翻弄されてしまうとは、滑稽でもありませんが、何やら不気味な予兆さえ感じさせます。人間はこれまで、自然には存在しないものをいろいろ

ろ作り上げてきました。今回のように大山鳴動して鼠一匹といった類なら良いのですが、私たちの予想や知恵をはるかに越えた取り返しのない事態になったら……。賢しかなことを言うようですが、それが人間にとって本当に必要で大事なのか、そして人間に本当に平和と幸福をもたらすのか、といった視点が欠かせないでしょう。もっと自然の声を澄ますべきかも知れませんがね!

元気いっぱい

スタッフレポート



特賞をゲットした野尻、お下劣三人衆と土俵入り。

職員大忘年会

豪華景品が揃う中
ダジャレ短冊の
『近藤浩賞』が
話題独占!

12月15日、横手市のプラザホテルを会場にエリア内で職を共にするメンバーが集まって恒例の「大忘年会」を行いました。お楽しみ抽選会では、ビンゴゲームとジャンケンを組み合わせた争奪戦の結果、「お寒いダジャレを読めない字で短冊に書いただけ」という「近藤浩賞」を総務課の佐川が泣く泣くゲット。その後は、お下劣な仮装が飛び出すなど正に世紀末にふさわしい忘年会となりました。

新年あけまして おめでとろございます

皆様方には、明るく楽しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

例年になく過ごしやすい新年となった西暦2000年であります。社会福祉事業を取り巻く環境は必ずしも穏やかとは言えないようです。平成9年11月中央社会福祉審議会での審議がスタートした「社会福祉基礎構造改革」の答申内容及び県が示した「秋田県行政改革大綱」の方針により、運営に関する一層の機動性や効率性を求められているからです。こうした福祉の大きな改革を前に、エリアは新しい視点に立ってどんな県民サービスを目指すのが、年頭に当たり、谷藤友一エリア管理者に聞いてみました。



西暦2000年

エリアは新しい福祉の モデルを目指します

エリアが オープンしてから十二年目を迎えるわけですが、オープン当初とはエリアを取り巻く環境がだいぶ変わってきているようです。エリアが置かれている状況と今後の施設運営にどのような変化が求められていると思いますか。

これまでの十二年間、社会環境や福祉制度の変化は予想をはるかに超えたスピードで進んできております。エリア開設当時、社会福祉の理想であった「保健・福祉・医療の一体化」は当たり前になりましたし、各地に単独施設としてはエリアに勝るすばらしい社会福祉施設も整備されてきました。また、レクリエーションや娯楽保養施設の整備も進んでまいりました。こうした社会の状況を鑑み、エリアとしては設立目的であった「来るべき高齢化社会に備えた一つのモデル施設」としての役割は一応完了したものと考え、今後は複合機能施設として培ってきた地域や世代の交流活動、保健・医療・福祉の総合的な高齢者福祉事業のノウハウを活用した「新しいモデルとなるような施設運営」を進める時期にきていると思います。また同時に、県の第三セクター施設として、「低コストで利用者に満足してもらえるような効率的運営」も求められてきております。



平成10年度に 町立病院や老人保健施設等いわゆる「健康の丘おおもり」が隣接地にオープンしました。

エリアを取り巻く環境で最も影響を受けたのが、「健康の丘おおもり」の開設だと思います。ここには診療科目や医療設備、ベット数をはじめ療養型病床も充実した町立病院が建設されましたので、介護保険制度の開始と併せて診療リハビリセンターの役割と運営を見直すべき時がきたと思われま。

平成十年度

実績でコミュニティ部門が
十五万二千人（無料利用者を
含む）、診療部門が一万一千人、シルバーケアセンタ

ーが六千人。合計で約十七万人の人がエリアを利用
しています。この数字は、横手市・平鹿郡・雄勝郡を合
わせた人口十五万六千人を上回ります。こうした地
域交流も変化の影響を受けるのではないのでしょうか。

年間十七万人もの方々に利用していただいていること
について心から感謝申し上げます。世代間交流や地域交流を
合い言葉にした「エリアの三大祭り（夏祭り・秋の祭典・
雪祭り）」等魅力的な事業の実施に努めてきた成果と考えて
いますが、十七万人のうち有料入場者は約三十%であり、
いわば「秋田県による大きな県民サービス施設」と言うの
が現状です。昨今の社会経済の推移では、第三セクター事
業の独立採算性をさらに強く求められると思われ、県から
今までどおりの財政援助が続かないことを考慮し、広報活
動にも力を入れながら運営自体を見直さなければならぬ
と思います。

入居施設や 利用施設 も事業内容等の施設運営に変化 が求められるのでしょうか。

基本的には変化はないと思いますが、
介護保険制度の中で介護認定に該当しな
い高齢者の方々や軽度の障害を有する
方々の利用希望が多くなる等、職員には
さらに高度な介護・援助の技術が求めら
れてくるでしょう。シルバーケアセン
ターについても、しばらくはこのままの
内容で続けられると思いますが、介護保
険の実施主体である市町村が要介護認定
者以外の利用希望者にどのように対応す
るかによって、受け入れ対象者や内容・
料金体系も変わらざるを得なくなるで
しょう。

今後は、例えば設備と人材を生かした
「通所りハピリ事業」や町村との委託契
約による「デイサービス事業」の受託な
ど、地域の需要に対応するタイムリーな
新事業を展開することが考えられます。



今後の

エリア運営のテーマは何でしょう。

具体的な対策はまだ見えてい
ませんが、方向性を探るキーワ
ードは「介護保険」「健康」「安
らぎ」「自然」にあるように思え
ます。介護保険制度では非営利
性の強い分野について事業を進
め、国が進めようとしている『健
康・日本・二十一』運動の中に取
組むべき課題を見つけ、高齢者
福祉の基本である①生活の継続
性②自己決定権③残存機能の活
用の三項目を重視しながら安心
と安らぎのある「終（つひ）のす
みか」を提供し、エリアを取り
巻く豊かな自然を施設運営に取
り込んでゆとりと落ち着きに価
値をおく暮らしの手助けを行う
ことが、新しい方向になるの
ではないのでしょうか。

注

健康日本二十一

21世紀の国民の健康づくりのあり
方について「全ての国民が、健康で明
るく元気に生活できる社会の実現を図
るため、壮年死亡の減少、痴呆や寝た
きりにならない状態で生活できる期間
（健康寿命）の延伸等を目標に、国民
の健康づくりを総合的に推進する。」こ
とを基本理念としている。

エリアの事業や施設紹介・行事案内など、
県民のみなさんにとって役立つ情報をどんどん提供して参ります。
エリアは子どもからお年寄りまでが年間を通して、
気軽に・楽しく・安心して利用できる交流施設。
みなさんと一緒に施設運営を考えていきたいと思っておりますので、
いろいろな意見や要望をどんどんお寄せ下さい。
お待ちしております。

ホームページアドレス <http://www.netoomori.gr.jp/~area/>
メールアドレス area@netoomori.gr.jp

ホームページ
開設





「もろみの酒」の味っちは格別!!

あらだの町の
ここが知りたい

エリアの黄門様漫遊記
 ~生き生き学園移動講座~

町内探訪

酒蔵
 『備前酒造』の巻

「しほりたての酒」を
 吟味する黄門様



【今回の黄門様】
 老人専用マンション
 加藤良吉さん

大寒も近いというのに春を思わせるような陽気の一月十八日昼下がりに。人一倍酒に目のないエリアの黄門様が、大正三年創業という地元の酒蔵『備前酒造』見学に家臣総勢二十五名を引き連れて訪れた。黄門様の他、家臣はシルバーケアセンター藩より十名、軽費老人ホーム藩より五名、老人専用マンション藩より六名、そして御側衆（職員）が四名という布陣であったが、家臣の中に主婦が十三名もおられたのには、酒蔵の案内をお願いした高橋徳保杜氏も驚かれた様子であった。

さっそく蔵に入ると、一升瓶で四千本入るといふ巨大な樽が三十以上も並んでおり一行は度肝を抜かれたが、「もろみの酒」を馳走になると天下の副將軍の類もゆるみっぱなし。麹（こうじ）を作る麹室（こうじむろ）に入ると、その温かさに「エリアよりこの方がええなあ。」などと申す不届き者も現れるが、高橋杜氏の丁寧な説明が始まると熱心に聞き入っていた。

酒造りには麹の善し悪しが大きく影響するそうで、夜中に何度も起きて麹蓋（こうじぶた）の積み替えをしたり、天窓を開閉してこまめな温度管理をしたり、蒸米の状況に応じて湿度を調整する……などという話を聞くと、職人の方々のご苦労と妥協を許さない真剣勝負の姿勢に頭が下がる思いであった。しかし、「ミカンや納豆が持っている菌が酒造りに大切な『酵母菌』

や『麹菌』を殺してしまうため、この季節は職人の食卓に乗ることはない。」という説明には、納豆が酒造りの天敵と知り、水戸ご出身の黄門様はたいそう驚いておられた。いずれにしても良い酒を造るには、技術や理論に裏付けられた豊富な経験と地道な努力があるものだ……と感慨に耽りつつ一行に目をやると、「もろみの酒」が利いてきたのか頭ではなく顔と目尻が下がってきておった。

最後に高橋杜氏が「しほりたての酒」を巨大なタンクから汲み出すと、一行は我先にと杯を飲み干し、杜氏と職人が精魂を込めた原酒の洗練された味わいを堪能。黄門様も満足の笑みを浮かべておられた。

帰りのバスでは歌こそ出なかつたものの、勝ち鬨とも思える豪快な笑い声が絶えない視察であった。



麹室での説明



●●● 今回の講師 ●●●
 たか はし とく お
高橋 徳保さん

山内村出身。昭和44年から『備前酒造』に勤務し、現在は平鹿郡杜氏組合会長。酒蔵の看板酒「大納川」の伝統を守りつつ、平成3年には幻の銘酒として全国から注目を浴び続けている「山内杜氏」を発表しました。酒造りについては、「目標どおりの酒はなかなか造れません。」と謙遜なさいますが、米や水の旨味を最大限生かし、飲む人に喜びを与えたいという貪欲な気持ちが伝わってきました。

第1回 書道教室

■講師…小西 進先生
(雄物川町在住)
■開催日…毎月第4金曜日
午前10時から



気持ちが落ち着き、身がひきしまります

受講生の声

戦前の紙や筆を満身に使うことができない時代に育ったので、エリアに入居してから始めました。できることを何かひとつ、続けていこうと決めて取り組んでいます。

養護老人ホーム
池田カツさん



申込先 大森町教育委員会
☎0182(26)4073
エリア企画指導課
☎0182(26)3880

エリア開設当初はシルバーケアセンター、現在は養護老人ホーム食堂を会場にして毎月一回実施しています。教室の雰囲気や一言で言うと、先生の熱のこもった指導と受講者の気持ちを込めた筆使いが、心地よい緊張感を漂わせている”という感じ。講師の小西先生は、実に十二年間に渡り指導に当たっていますが、”エリアの教室に参加している人は本当に熱心で、上達していくのが目に見えてわかる。”と目を細めます。現在、受講者は入居者・地域住民合わせて約二十五名ですが、年齢や居住地に関わらず随時募集しています。ワープロやパソコンがもてはやされる時代だからこそ、書道の良さを改めて味わえることでしょう。

在宅介護…お手伝いします

連絡先

エリア診療リハビリセンター
理学療法士 佐藤
作業療法士 原田
☎0182(26)3869



理学療法士 佐藤

在宅で寝たきりの方や自立が難しい方の日常生活動作(ADL)について、診療リハビリセンターの理学療法士(PT)と作業療法士(OT)が自宅にうかがい、指導やアドバイスを行っています。

秋田県の総人口に占める70歳以上の比率は約15%ですが、平鹿郡内は18%、大森町内だと実に20%。当然、日常生活動作の低下したお年寄りが在宅で生活していくケースは年々増加することが予想され、お年寄りご自身はもちろん介護をなさっているご家族へも援助が必要です。

このように在宅での生活に悩みを抱えている方々に対して、PTやOTが持っている専門的な知識や技術を提供しようというのが、この「訪問リハビリ」。福祉機器や用具・介護用品の紹介から、住宅の改造ポイントのアドバイス、基本的な介護技術や訓練方法など幅広く指導します。

現在は、大森町の事業と協力して一月に2回程度実施していますが、要望があれば町内に限らず行っていきたく考えています。まずは、お気軽にご相談ください。

訪問 リハビリ



作業療法士 原田

クリスマス・イルミネーションの贈呈式

12/9



コミュニティセンター玄関前の樅（もみ）の木が華やかなイルミネーションで飾り付けられました。これは大森町ライオンズクラブがエリアの利用者や入居者にクリスマスの雰囲気を高めてもらおうと寄贈したもので、贈呈式では、入居者を代表して軽費老人ホーム入居者の矢野力ツさんが目録を受け取りました。

エリアの 元気

レポート

REPORT

クリスマス&

もちつき会

会場となった子どもと老人のふれあいセンターはクリスマスの装飾でいっぱい。今回は「谷京子さんとグループ「風」のみなさん」による歌や人形劇、そして童話の朗読などがあり、メルヘンの世界に飛び込んだような幻想的雰囲気のクリスマス会に子どもたちは大喜びでした。続いて行われたもちつき会では、子どもたちが杵を使って餅をつくなど、家族みんなが楽しめるイベントとなりました。



12/25

みんなで応援！記録会。

プール・レクリエーション

四歳から小学五年生までの三十九名が参加して、屋内温水プールを会場に記録会とゲームを楽しみました。記録会はエリアの水泳教室受講者の参加が目立ちましたが、浮き輪を使った幼児の記録測定もあり、一緒に来た家族も一生懸命応援していました。水泳を指導している職員によると、冬場も水泳を続けている子どもたちは風邪も引きにくいとのこと、参加者は正に元気いっぱい。明るい歓声が聞こえました。一日でした。



プールの玉入れ競争

12/23



すてきなピエロが登場しました。



餅って、こうしてつくんだネ…。

あんなこと いろいろなこと

歳なば忘れて、 完全燃焼だあ!!

忘年会

シルバークアセンダー



ラブラブどしようすくい

12/20

やはり出た!! "アイドル職員"佐藤の
妖艶なマリリン・モンロー



色とりどりのおかずがぎっしり入った弁当を肴にほろ酔い気分。余興もカラオケ・踊り・詩吟・民謡と盛りだくさんでしたが、なかでも利用者と職員がペアで踊る「ラブラブ泥鰌(どしよう)すくい」は息がピッタリ。全員抱腹絶倒の一日でした。

クリスマス会と
いっしょに忘年会を
行いました。ビンゴ
ゲームやカラオケで
盛り上がった後は、
特注の弁当に舌鼓を
打ちながらおいしい
お酒を飲みました。

軽費 老人ホーム

12/24



寮母さん、今年も
お世話になりました~!!

看護老人ホーム

秋田の味覚「ハタハタ」
の寄せ鍋に刺身、天ぷらが食
べきれないぐらいテーブルに
並び、会話もお酒も進みまし
た。また、「もぐらたたきゲー
ム」では、正に「年を忘れて」
もぐらに扮した職員の頭にハ
ンマーを打ち下ろしました。

12/17



メニューはハタハタ鍋をメインに刺し身・天ぷら...

老人専用マンション

12/21

大曲エンバイヤホテルによる出張バイキング
料理を楽しみました。過ぎ行く1900年代を回
想しながら、静かな雰囲気です。

チャレンジ・ザ・

12/4
1/9

たくさんの 親子が参加



冬休みの体験学習・親子のふれあい教室として今回は「陶芸」「ハーブ」「押し花」「絵付け」「料理」の五教室を企画。昨年とほぼ同数の約六六〇名に及ぶ親子連れでにぎわいました。なかでも好評だったのがエリアの生きがい農園で収穫したハーブを使って、クリスマス用のキャンドルと壁掛けを作るハーブ教室。アンケートでも「先生の指導で思い通りの作品が上手に作れた」という意見が多く見られました。



千支(えと)の辰(たつ)をカラフルに仕上げました
(絵付け教室)



お父さんがたくさん参加した「そば打ち」
(料理教)



ていねいな指導が好評でした
(陶芸教室)

破顔一笑すこやか Nice Gay

介護老人ホーム
久米喜義さん

陶芸教室、絵付け教室に助手として協力。粘土の練り方を中心に、子どもたちへアドバイスしてくれました。「言うこと聞いてくれるわらしなば、めんげなあ。」

福祉一口メモ

『福祉』の定義

『福祉』については、その時代や立場・学説などによって様々な定義がなされていますが、その代表的なものが1950年の社会保障制度審議会による「国家扶助の適用を受けているもの、身体障害者、児童その他援助育成を要するものが自立してその能力を発揮できるような生活指導、更生指導その他の援助育成を行うこと。」という定義と、戦後の福祉思想と実践に大きな影響を与えた糸賀一雄氏による「社会福祉という言葉は、『社会』という集団のなかにおけるひとりひとりの『幸福な人生(=福祉)』を指すものであり、社会という集団が福祉的でありさえすれば良いというのではない。つまり、社会が豊かであり、富んでいさえすれば、その中に生きている個人のひとりひとは貧しくて苦しんでいる者がいてもかまわないというのではない。社会福祉

というのは、社会の福祉の単なる総量を言うのではなくて、そのなかでの個人の福祉が保障される姿をさすのである。」という定義です。糸賀氏の言葉は平易平明ですが、生活困窮者であれ、病人であれ、老人であれ、障害者であれ、子どもであれ、その人の人間性や人生あるいは存在そのものを大切にしていくという考え方であり、福祉の本質を見事に言い表していると思います。強者の論理で弱者を切り捨てたり、全体のためという名の下に個人に犠牲を強いる考え方は真っ向から対立しています。

時代が変わり、新しい法律ができたり福祉制度の改革が行われたりすると、福祉の考え方自体変質変容を迫られることになるかもしれません。しかし、たとえ形は変わっても、福祉の本質まで変えてはいけないと思います。糸賀氏の言葉を良くかみしめ、深く心に刻んでおく必要があると思います。
(社会福祉士 近藤 浩)

あの頃 あの頃 私の思い出ばなし

思い出の品 すり金

シルバーケアセンター
伊藤 美喜栄さん

思い出の品は何かと聞かれ、台所の片隅に置いてある銅製の『すり金』がふと思い出されました。いつの時代でも人生を変える出来事はありますが、私たちの世代にとって共通に影響を受けた出来事は『戦争』でした。

空襲の焼け跡から

商業学校を卒業後証券会社に勤め、ようやく仕事のおもしろさが分かりかけた昭和二十年の四月、当時東京に住んでいた私は空襲で住む家を失いました。父は小さな写真館を営んでいましたが、家はもちろんのこと家族の大切な思い出の写真も失い、全ては私の頭の中になんか残っていません。幸い家族に被害はなかったのですが、我が家の焼け跡に立ちながら茫然自失。悲しみや恨みの思いさえ浮かぶことなく、「これが戦争なんだ、これが戦争なんだ……。」と繰り返してつぶやいたことを覚えています。何か残ってはいないかと探しているうちに、台所付近と思われる灰塵の中から見つかったのが、南部鉄瓶とこの『すり金』でした。

母から私へ

私の家族は焼け野原となった東京を離れ、父

の故郷仙南村に疎開してきました。縁あって私はそこで所帯を持つこととなったのですが、戦争も終わり、家族が東京に帰って行くときに、母は「何も無いねえ。」と言いながらそつと『すり金』を渡しました。仙南村の美しい山河・月・星・空は銀座のネオンよりも魅力があり、飾らない素直な自分で生きていけるといふ希望もありましたが、その夜は一人残されたような気持ちになって胸が詰まりました。女は涙を台所で流すと言います。大正初期、父と母が所帯を持って以来幾度となく母の涙を見てきた『すり金』は、その後はずっと私の涙と生き方を見てきてくれました。

『同志』と共に 祈るひと

『戦争』で私の運命は大きく変わりました。今改めて思えば、歯が所々欠け、形も少し歪な世界に一つしかないこの『すり金』こそ、私と共に戦災をくぐり抜け、数々の困難を乗り越えてきたかけ

がえの
無い『同志』だ
と感ずるので。

人にはそれぞれいろいろな人生のドラマがあることでしょ。これからは、私の味わった苦しみや悲しみの無い平和なドラマに彩られた社会が長く続くことをひたすら祈っています。



美喜栄さんのお父さんが撮影した明治42年の写真。モデルの顔を切りぬいて貼りつけている。当時としては技術と時間を要する仕事です。



「すり金」を見るとお母さんを思い出そうです

伊藤さんからは、生まれ育った東京の香りがほのかに感じられました